



ニュースリリース

平成30年2月7日
国立大学法人千葉大学 学術研究推進機構 産業連携研究推進ステーション

千葉大学と企業4社が合同で包括連携協定を締結！ 千葉が世界をリードするヨウ素製品の製造拠点「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター」Chiba Iodine Resource Innovation Center (CIRIC) の活動

このたび、国立大学法人千葉大学（学長：徳久 剛史）（以下、「千葉大学」）は、伊勢化学工業株式会社（代表取締役兼社長執行役員：藤野 隆）、株式会社合同資源（代表取締役社長：舘 良男）、日宝化学株式会社（代表取締役社長：内海 勝議）、株式会社ナックテクノサービス（代表取締役：長嶋 潜）（千葉大学以外の企業4社を総称して以下、「連携企業」）と組織的に連携し、千葉ヨウ素資源イノベーションセンター（CIRIC）における相互の研究活動を飛躍的に進展させるための協定（「包括連携共同研究推進等に関する協定」）を5者合同で締結しました。

千葉ヨウ素資源イノベーションセンター(CIRIC)における「包括連携研究協定」を締結

- 千葉大学と連携企業が5者合同の協定で相互に連携協力体制を構築。
- 競争領域における個別企業の研究テーマに関してはクローズドな環境を確保しつつ、非競争領域におけるオープンイノベーションを推進。
- 千葉県が有するヨウ素資源を効率的・効果的に活用し、社会的なインパクトを有する先進的で持続可能な事業化へつなげる。

【内容】

千葉大学と千葉県が共同で申請した平成28年度文部科学省「地域科学技術実証拠点整備事業」に採択されたことを受け、千葉大学は、世界をリードするヨウ素製品の製造拠点として「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター」(CIRIC)を設置することとなりました。

当該センターには千葉大学の研究者のほか、入室管理設備が整った研究スペースに連携企業が入居して研究活動を実施する予定であり、本協定を締結することで千葉大学と連携企業が相互に協力し多面的に連携することにより、オープンイノベーションを推進し、研究活動を飛躍的に進展させることが期待できると考えています。

世界シェア21%を誇る千葉県の貴重なヨウ素資源を活用し、オープン・クローズの両方を兼ね備えた先進的なイノベーション創出環境を整えることにより、社会的インパクトの高い高機能ヨウ素製品の社会実装を目指します。

【背景】

ヨウ素は日本が世界に供給できる貴重な元素であり、産出量は世界第2位で世界シェアの約30%を生産しています（千葉県はそのうちの75%）。しかし、この重要な資源を日本は活かしきれていません。日本から輸出されるヨウ素の殆どはヨウ素もしくはヨウ素塩などの製造原料で、それを原料に海外の製造企業がX線造影剤や消毒薬など高付加価値な製品に加工・販売し、日本はそれらを輸入しているのが現状です。

そこで、「日本の貴重な『ヨウ素』資源を活用するには、千葉が世界をリードし、最先端科学で高付加価値のヨウ素製品を開発・製造する拠点を千葉に設立するしかない」と考え、ヨウ素資源を千葉において高付加価値化し、地方創生を実現する「千葉ヨウ素資源イノベーションセンター（CIRIC）」を設立することとなりました。

【地方創生に貢献する効果と産学官の連携体制】

産学官の連携を目指しヨウ素利用研究会が1998年に設立されて以来、研究会の後継となるヨウ素学会（2007年発足）を通じて、千葉大学は日本のヨウ素科学を牽引してきました。

そして、最先端科学設備の整った千葉ヨウ素資源イノベーションセンター（CIRIC）をヨウ素科学推進のランドマークとして、連携企業との共同研究を進めると共に、非競争領域においては千葉大学と連携企業等からなるコンソーシアム型の本格的な産学官連携を推進します。ヨウ素のリサイクル事業では、千葉県との協働により『ヨウ素の千葉』を啓発することでリサイクルシステムの千葉モデルを構築し、世界展開していきます。



【参考】

千葉ヨウ素資源イノベーションセンター「包括連携共同研究推進等に関する協定」概要
URL : <http://www.chiba-u.ac.jp>

【本件に関するお問い合わせ先】

（千葉大学）

研究推進部産学連携課 加藤 洋介

Tel : 043-290-3605 Fax : 043-290-3519

E-mail : beg3605@office.chiba-u.jp